

10月7日(土)~11月5日(日) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 渡辺 亨



渡辺 亨

音楽評論家。雑誌やWebメディアなどへの寄稿をはじめとする執筆活動に加えて、放送媒体やDJとして活動。NHK-FMの『世界の快適音楽セレクション』では、レギュラーで全体の構成と選曲を担当し、なおかつ自己のコーナーでDJを務めている。著書に『音楽の架け橋 快適音楽ディスクガイド』(シンコーミュージック)、『プリファブ・スプラウトの音楽—永遠のポップ・ミュージックを求めて』(DU BOOKS)。

今回のセレクトCD

1.



Celso Fonseca & Ronald Bastos / Juventude / Slow Motion Bossa Nova (Universal / 40 066 089-2)

コパカバーナの海岸に面したリオデジャネイロの高級アパートメント。1950年代末期に、そのアパートの満洒なサロンに集っていた若者たちが、ボサノヴァを生み出しました。セルソ・フォンセカ&ロナルド・バストスは、当時のボサノヴァの本質的な瑞々しさや精神性を受け継ぎつつ、独自の芳醇な音世界を築き上げているコンビ。セルソの歌も、バクスの演奏も、まるで重力から解放されているような浮遊感を漂わせていて、しかもゆったりと流れている。高級シルクのペールをまとった貴婦人のように艶やかに、官能が匂い立つ'21世紀のボサノヴァ'です。

2.



Bill Evans / From Left to Right (Verve / UCCU-6082)

ミシェル・ルグランが作曲した“What Are You Doing the Rest of Your Life?”で始まる本作は、ビル・エヴァンズのアルバムの中では異色の部類に入る一枚。ここでのビルは、生ピアノとエレクトリック・ピアノを併用し、多重録音も駆使。また、オーケストラと一緒に録音している曲もあるので、ジャズというより映画音楽を聴いているような雰囲気浸ることができる。美しい憂鬱が胸に染みこむこのアルバムは、晩秋にふさわしい秀作。一曲目の邦題を借りるなら、あなたの「これからの人生」を彩るサウンドトラックとも言えるでしょう。

3.



Prefab Sprout / Steve McQueen (Sony / SICP 30207)

秋が深まり、木枯らしが吹き、舗道に落ち葉が散る頃になると、なおさらこの80年代のイギリスを代表する珠玉のポップ・ソング集を聴きたくなります。なぜかという、青春映画のフンシーンのようなジャケットが物語っているように、過ぎ去った夏と青春の思い出が、北イングランドの冷たい風に舞っているような瑞々しくも切ないアルバムだから。パティ・マクアルーンの作詞作曲による胸を焦がす楽曲も、紅一点のウェンディ・スミスの清涼感あふれるコーラスも、生楽器とエレクトロニクスのバランスが絶妙なサウンドも、すべてが“エヴァーグリーン”。

4.



Gretchen Parlato / ザ・グレッチェン・パーラト・シュプリーム・コレクション (Core Part / RPOZ-10017)

グレッチェン・パーラトは、声量の豊かさや声域の広さでなく、絶妙なコントロールに基づく歌唱で聴き手を魅了するジャズ歌手。囁いているようなヴォーカルや吐息混じりのスキャットは、とても都会的で洗練されていますが、それでいて潤いや香りもあります。しかも音程とリズム感も抜群で、まさに現代屈指のジャズ歌手です。グレッチェンは、ジャズに活動の軸足を置きつつ、ブラジル音楽からクラフ・ミュージックまで幅広いジャンルの精鋭たちと共演を重ねてきました。こんな彼女の多彩な活動を伝えるべく、僕が選曲したコンピレーションです。

5.



Caetano Veloso / Livro (Mercury / UICY-76383)

ブラジル音楽史が描かれた壮麗な絵巻物のように、現代ラテン・アメリカ文学の“マジック・リアリズム”に通じる前衛性と興奮を味わわせてくれる書物(Livro)のような傑作。カエターノ・ヴェローゾの想像力はまさに時空を超えて飛翔しているかのようで、ブラジル北東部の鮮烈なリズムと爛熟の香りすら漂うオーケストレーションが、聴き手を未知の世界に誘ってくれます。カエターノは本作を、「沈黙よりも美しいのはジョアン・シルベルトの音楽」という一節で締めくくっています。ならば、この[Livro]はジョアンの次に美しいブラジル音楽です。